

## 第4学年 総合的な学習の時間指導案

### 1 単元名 広げよう！思いやりの輪

#### 2 単元設定の理由

現代社会では少子高齢化が進み、子供たちの周りには高齢者が増えてきている。本校の学区でも、築40年以上の古い団地が多く、人の出入りが少ないため、高齢者が多い。学校でお世話になっているセーフティーウォッチャー、花壇ボランティアさんも高齢者である。児童にとって身近な高齢者と言えば、自分の祖父母やセーフティーウォッチャー、花壇ボランティアなど地域に住む高齢者を挙げるだろう。だが、高齢者といっても年齢や体の状態は様々で、日常生活を送るのに苦労している高齢者もいる。実際に、児童は上記のような高齢者と関わったことはあまりないようである。どんな高齢者でも、相手の立場に立って考え、寄り添える児童に育てていきたいと考える。新学習指導要領でも、「福祉に関わる学習を進める中で、一人一人の状況に応じた配慮が求められる」ことと、「相手の立場に立ち、相手の気持ちに寄り添うことが大切である」ことが明記されている。その点からも、本単元では、年齢や体の状態が様々な高齢者と関わり、「相手に共感する」「相手の立場に立って考える」「自分にできることを考え、実行する」力を育てていきたい。この力を培うことで、今後、学校や地域において、自分や他者を大切にし、相手を思いやる心が育ち、よりよい人間関係を築いていこうとする態度が身に付けられると考える。

本単元では、まず、高齢者の体や生活について知るために、高齢者疑似体験や身近にいる高齢者（祖父母や地域に住んでいる人など）にインタビューしたり、近くの老人ホームに訪問して入居者の実態を見たりする活動を行っていく。高齢者疑似体験や、インタビューや交流する中で得られる情報は、高齢者に対する理解を深めると考える。

その後、老人ホームへの訪問を通して感じたことや疑問に思ったこと、気付いたことを学級全体で共有する。さらに、老人ホームに住んでいる高齢者が施設見学に来た時のことを話している音声を聞き、「もう一度行きたい」「老人ホームに住んでいる高齢者に対してできることはないか」を考え、自分の課題を決めていく。そうすることで、自分で課題を見つけ、追究していくようになると思う。

課題に対して追究していく場として、老人ホームとの「交流会」を設定する。交流会の内容を決める話し合いでは、「どんな交流会にすれば喜んでもらえるか」「どんな活動が可能か」などと、相手のことを考えて、活動の内容を決めるようにする。その際、老人ホームに住んでいる高齢者の実態を考慮しながら、活動の内容を決めることも忘れないようにしたい。これらの活動を通して、「相手に共感する」「相手の立場に立って考える」「自分にできることを考え、実行する」力が育てられると考える。

単元のまとめでは、今までの学習を振り返り、これから自分の祖父母や老人ホームに住んでいる高齢者のために、自分ができないことはないかを考える学習を行う。この学習を通して、相手のことを考え、自分にできることを実行しようとする気持ちを高め、相手を思いやる心を育てていきたい。

### 3 児童の実態

総合的な学習の時間については、9割以上の児童が「好き」「どちらかといえば好き」と答えた。理由としては、「コンピュータや本を使って調べるのが好き」や、「調べたことをまとめるのが好き」といった回答が多かった。

一方、「興味や疑問に思ったことから、課題を見つけることができるか？」の問いには「できない」、「あまりできない」という回答もあった。課題設定は、探究的な学習にするためにとても大事な学習活動なので、体験活動を通して児童にとって切実感のある課題を設定できるように、学習を計画していきたい。そこで、本単元では、高齢者疑似体験や老人ホームの施設見学、身近にいる高齢者や老人ホームで働いている人へのインタビューをする活動を行い、高齢者の体や生活を知るだけでなく、その方の思いや願い、日常生活を送る上での不自由さや不便さを理解するところから学習を進めたい。そしてそれらの活動を通して児童が感じたことや疑問に思ったことなどをもとにして、課題を決めていく。様々な体験活動や高齢者の思いをもとにして、自分で課題を決めていくようにすれば、児童にとって切実感のある課題となり、課題に対して追究していく姿が見られるようになると思う。

また、「地域の方や専門家に積極的にかかわることができますか？（質問したり話したりするなど）」という質問には、「できない」、「あまりできない」という答えもあった。地域に住んでいる高齢者に絞って、「自分から話しかけることができますか？」とアンケートをとったところ、「あまりできない」「できない」という回答もあった。普段あまり関わっていない人に対して自分から関わることはなかなか難しいので、まずは、関わっていく対象に対して関わる機会をつくり、少しずつ関係性を深め、児童にとって身近な存在になれるようにすることが大切である。本校の近くには老人ホームがあり、毎年総合的な学習の時間で福祉の学習を行う際に訪問している。学習対象が身近にある点から、老人ホームに住んでいる高齢者を本単元で扱うことはとても有効であると思う。本学級の児童のほとんどは、本校の近くに老人ホームがあることを知っているが、老人ホームがどんな施設なのかはわからず、老人ホームに行ったこともない。そういった実態から、本単元では、老人ホームの施設見学や交流を行い、老人ホームについて知るだけでなく高齢者のためにできることはないかを考えたり、相手のことを思いやって接したりしながら、対象に働きかけるように学習を仕組み、児童自ら関わっていけるようにしていきたい。

### 4 単元の目標

高齢者との交流を通して、その方の思いや願い、日常生活を送る上での不自由さや不便さを知り、相手の立場に立って考え、自分にできることを実践しようとするができる。

### 5 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○高齢者の思いや願い、日常生活を送る上での不自由さや不便さを知り、高齢者にとってよりよい支援や介助の仕方について理解する。	○老人ホームへの訪問を通して気付いたことや疑問、老人ホームに住んでいる高齢者の思いから、課題を見つけることができる。 ○インタビューで必要な情報を収集することができる。 ○高齢者の立場に立って考えたり、相手の気持ちに寄り添ったりしながら、自分にできることを実践することができる。	○老人ホームに住んでいる高齢者に進んで関わろうとする。 ○友達と一緒に「交流会」の計画を立てたり、準備をしたりしようとする。

6 指導計画（29時間）

過程	主な学習活動	学習形態	・教師の支援 ☆観点別評価【評価の方法】	時数
課題を設定する	○4年生の総合的な学習の時間のめあてを立てたり、4年生の探究課題として「福祉」があることを確認したりする。	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の学習内容や活動の成果、課題を確認し、4年生のめあてを立てるようにする。</li> <li>・みんなで学習する「福祉」の定義を説明する。</li> </ul>	1
情報を収集する	○高齢者が日常生活を送る上で困っている、問題になるケースをいくつか取り上げ、事例ごとにどんな面で困っているのか、問題なのか、自分たちにできることはないかについて話し合う。	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が日常生活を送る上で困っている、問題になる場面がイメージできるように、小学生向けの福祉冊子『やさしい気持ち』の中から事例を取り上げる。</li> <li>・自分たちの生活の中で事例と同様な場面があったか投げかけたり、もし自分がこの場面に行ったら何ができるか考えさせたりして、より現実的な問題として捉えられるようにする。</li> </ul> ☆知識及び技能 <b>【ワークシート】</b>	3
	○高齢者疑似体験をする。	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の立場だけでなく高齢者を支える側にも意識を向けて、接し方や支え方を学ぶように声をかける。</li> </ul> ☆知識及び技能 <b>【体験の様子、振り返りカード】</b>	3
	○身近にいる高齢者（祖父母や地域に住んでいる人など）に、体の変化や日常生活を送る上で大変なことについてインタビューをする。	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にどんな情報が知りたいのか、学級全体で話し合い、内容を決めてからインタビューをするようにする。</li> <li>・インタビュー後、学級全体でインタビューの内容を共有し、高齢者の体や生活についてより理解を深めるようにする。</li> </ul> ☆思考力、判断力、表現力等【インタビューメモ、振り返りカード】	3
課題	○自分たちの地域に住んでいる高齢者の存在を知り、知っていることや知	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の近くに老人ホームがあることを知らせる。</li> </ul>	1

コメ  
体験  
とる  
にな  
活を  
方や  
接す  
振り  
よう

コメ  
・イ  
何  
内  
※期  
士  
(ふ  
(車  
高齢  
9/  
事前  
9/

を設定する	らないことを挙げて、課題を持つ。		・老人ホームに住んでいる高齢者の体の状態や生活はどうなっているのか投げかけ、次時の活動につなげる。	
情報を収集する	○老人ホームの施設見学や高齢者との交流（話したり、遊んだりする）、実際に働いている人の話を聞く。 <予想される児童の反応> ・階段や段差がない。 ・あらゆるところに手すりがある。 ・さびしい思いをしている人もいるんだな。 ・高齢者は生活するのに大変だと思っていたが、運動をしたり、趣味を楽しんだりしていて、楽しく生活していることがわかった。 など	全体 ↓ グループ ↓ 全体	・事前に老人ホームのHPを見て、施設の特徴を知り、老人ホームのイメージを持たせておく。 ・高齢者と関わる時に気を付けることを確認する。 ・老人ホームで働いている人に、高齢者の生活や施設面の工夫について話してもらうをお願いする。 ☆知識及び技能 【見学メモ、振り返りカード】	4
課題を設定する	○児童が施設見学を行ったことに対する、老人ホームの高齢者の反応を聞き、これから老人ホームに住んでいる高齢者に対してできることはないか考える。 <予想される児童の反応> ・「もっとお話がしたい」「また遊びに来てね」と言ってくれたのがうれしい。 ・次はもっとお話をしたり、遊んだりしたいな。 など	全体	・高齢者の生の声を聞かせるために、老人ホームで働いている人に録音をお願いする。 ・老人ホームに住んでいる高齢者や働いている人の思いや願いを踏まえながら、自分たちにできることを考えるように声をかける。 ☆思考力、判断力、表現力等 【振り返りカード】	1
整理し分析する	○老人ホームに住んでいる高齢者の趣味について、インタビューを使って情報を収集し、老人ホームに住んでいる高齢者との交流の仕方について考える。 <予想される交流の仕方> ・歌 ・折り紙 ・お手玉 ・お話をする など	グループ ↓ 全体	・インタビューの仕方について指導する。 ・「どんな交流をすれば喜んでもらえるか」「どんな活動が可能か」、相手のことを考えて、活動する内容を話し合うように声をかける。 ☆思考力、判断力、表現力等 【インタビューメモ】	2
	○「交流会」の計画を立てる。	グループ	・老人ホームに住んでいる高齢者の体への負担や安全面の確保、高齢者が楽し	1

コメ

コメ  
録音  
職員

高齢

職員

高齢

これ  
対し

施設  
感想  
2 2

コメ  
相手  
から  
容を

コメ  
1 0

			<p>く参加できるかを考慮しながら、活動の内容を決めるように助言する。</p> <p>☆学びに向かう力、人間性等</p> <p><b>【話合いの様子、ワークシート】</b></p>	
ま と め ・ 表 現 す る	○「交流会」の準備をする。	グループ	<p>・高齢者の体への負担や安全面の確保、高齢者が楽しく参加できるかなどを考えながら、交流会の準備や練習をするように声をかける。</p> <p>☆学びに向かう力、人間性等</p> <p><b>【準備の様子、振り返りカード】</b></p>	5
	○老人ホームに訪問し、「交流会」をする。	全体 ↓ グループ ↓ 全体	<p>・事前に交流会の内容を老人ホームの職員に伝え、高齢者の体への負担や安全面の確保、高齢者が楽しく参加できるかなどを確認してもらい、当日の運営や安全面で配慮していただけるようお願いする。</p> <p>・練習したことを生かして、進んで交流できるように支援する。</p> <p>・高齢者にどのような声かけをしたらよいか悩んでいる児童には、一緒に話しかけるようにする。</p> <p>☆思考力、判断力、表現力等</p> <p><b>【活動の様子】</b></p>	2
ま と め ・ 表 現 す る	○「交流会」の振り返りをする。 <予想される児童の反応>	全体	<p>・交流会を振り返り、関わっている時の高齢者の様子やうまくいったところ、課題などを振り返りシートに記入し、自分や友達の成長を確かめられるようにする。</p> <p>☆思考力、判断力、表現力等</p> <p><b>【振り返りカード】</b></p>	1
	○今までの学習を振り返り、これから自分の祖父母や老人ホームに住んでいる高齢者のために、自分ができることを考える。	個人	<p>・児童の考えを、「自分のおじいちゃん、おばあちゃん」「老人ホームに住んでいるおじいちゃん、おばあちゃん」の欄に分けて板書し、自分ができることを考えられるようにする。</p> <p>☆思考力、判断力、表現力等</p> <p><b>【付箋紙、振り返りカード】</b></p>	1 本時
	○自分の成長を振り返る。	個人	<p>・福祉について考えたことや自分の考えが変わったことなどを自己評価カー</p>	1

コメ  
2 (

コメ  
4 (

			<p>ドに書き、自分の成長を確かめられるようにする。</p> <p>☆思考力、判断力、表現力等</p> <p>【自己評価カード】</p>
--	--	--	--

## 7 研究主題との関連

### 【視点1 ひと・もの・ことにかかわる探究的な学習】

#### ○課題設定の工夫～対象との関わりから～

日常生活を送るのに苦勞している高齢者との関わりがあまりない児童の実態から、まずは、高齢者の体や生活について知るところから学習を進めたい。そこで、高齢者疑似体験や身近にいる高齢者（祖父母や地域に住んでいる人など）へのインタビュー、近くの老人ホームに訪問して高齢者の実態をつかんでいきたい。そして、施設訪問後、児童一人一人が感じたこと、疑問に思ったこと、気付いたことを出し合い、さらに、老人ホームに住んでいる高齢者から施設見学に来た時の感想（音声データ）を話してもらおう。高齢者の生の声を聞くことで、老人ホームに住んでいる高齢者に対してできることはないかを考えるようになり、自分の課題を見つけられるようになると考える。そうすることで、自分にとって切実感のある課題となり、単元を通じて探究的な学習を進めることができるようになると考える。

#### ○課題追究の場の工夫

課題に対して追究していく場として、老人ホームとの「交流会」を設定する。そして、準備から交流会まで児童自ら行い、相手の立場に立って考え、自分にできることを実践しようとするようにしていきたい。その際、「どんな交流会にすれば喜んでもらえるか」「どんな活動が可能か」などと、相手のことを考えて活動の内容を決めたり、老人ホームに住んでいる高齢者に配慮したりして、相手の立場に立って考え、思いやりを持って行動できるような児童を育てていきたい。

### 【視点2 子ども自身が、自分の成長を実感できる評価の工夫】

#### ○新学習指導要領での評価の実施を見据えた3観点での自己評価

本年度は、前年度と同様の評価項目、評価規準で行うとの通知があったが、来年度以降は3観点での評価で行われることが予想される。したがって、本単元では、新学習指導要領での評価の実施を見据えた3観点で自己評価し、自分の成長が確かめられるようにしていきたい。

児童には、単元の前後に、この単元で身に付けてほしい力が示された自己評価を行うようにする。これを行うことで、単元の中で何をめあてにして学習していくのか明確になり、身に付けてほしい力が伸びていくようになると考える。また、友達や教師といった他者評価の視点も入れることで、より自分の成長が実感できるようになることが期待できる。

#### ○振り返りの充実

活動の節目となるところでは、自分自身の活動や学びを振り返る時間を設定していきたい。単元全体を通した自己評価カードだけでなく各活動の中で感じたこと、考えたこと、疑問に思ったこと、わかったこと、こうしたいと思ったことを書き溜めることで、児童にとって単元が進む中でどのような思考を辿っているのか、可視化でき、追究していくようになると考える。また、教師にとって児童の

学びの過程がよく見えるので、実態把握がしやすく、称賛しながら学習意欲を高めて、主体的な学びへと導けるようになると思う。

## 8 本時の展開 (28 / 29)

### (1) 本時の目標

- 自分の祖父母や老人ホームに住んでいる高齢者のために、今後自分にできることは何か考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

### (2) 展開

学習活動と内容	教師の指導と支援 (○) 評価 (☆)
<p>1 今までの学習を振り返り、本時の学習課題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>自分や老人ホームに住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんのためにできることを考えよう。</p> </div>	<p>○老人ホームの施設見学や働いている人へのインタビュー、交流会の様子がわかる写真や、学習してきた足跡を掲示し、今までの学習を想起できるようにする。</p>
<p>2 今後自分の祖父母や老人ホームに住んでいる高齢者のためにできることをペアで話し合う。</p> <p>&lt;予想される・期待する話し合い&gt;</p> <p>(祖父母)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のおじいちゃん(おばあちゃん)がもっと年をとって、体を動かすことが難しくなったら、体を支えたり、手伝いをしたりしたいな。</li> <li>・これからも、もっとおじいちゃん(おばあちゃん)と話したり、仲良くしたりしたいな。もっとたくさん遊びたいな。</li> </ul> <p>(老人ホームに住んでいる高齢者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回目の交流では、うまくいったところもあったけど、うまくいかないこともあったから、もう1回行って、おじいちゃん、おばあちゃんが楽しんでもらえることをしたい。</li> <li>・2回目の交流では、私たちが考えた遊びを一緒に楽しくやってくれてうれしかったので、もう1回行って、おじいちゃん、おばあちゃんと楽しく遊びたいな。</li> <li>・老人ホームに住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんがもっと楽しめるもの(イベントや遊びなど)がないかな？</li> </ul>	<p>○掲示物や今まで書いてきた振り返りカードを見返しながら、自分にできそうなことを考えるように声をかける。</p> <p>○考えがあまり出ないペアに対しては、教師からできそうなことを提案し、その他にも何かないか一緒に考える。</p>
<p>3 ペアで話し合った内容を学級全体で共有する。</p> <p>&lt;予想される・期待する発言&gt;</p>	<p>○児童の考えを、「自分のおじいちゃん、おばあ</p>

コメ

コメ

コメ

(祖父母)

- ・自分のおじいちゃん(おばあちゃん)がもっと年をとって、体を動かすことが難しくなったら、体を支えたり、手伝いをしたりしたいです。
- ・これからも、もっとおじいちゃん(おばあちゃん)と話して仲良くなりしたい。たくさん遊びたい。

(老人ホームに住んでいる高齢者)

- ・2回目の交流では、うまくいったところもあったけど、うまくいかないこともあったから、もう1回行って、おじいちゃん、おばあちゃんが楽しんでもらえることをしたい。
- ・2回目の交流では、私たちが考えた遊びを一緒に楽しくやってくれてうれしかったので、もう1回行って、おじいちゃん、おばあちゃんと楽しく遊びたい。
- ・老人ホームに住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんがもっと楽しめるもの(イベントや遊びなど)がないかな?考えてみたい。

4 自分にできそうなことを付箋紙に書き、模造紙に貼る。

<予想される・期待する児童の考え>

(祖父母)

- ・自分のおじいちゃん(おばあちゃん)がもっと年をとって、体を動かすことが難しくなったら、体を支えたり、手伝いをしたりしたい。
- ・これからも、もっとおじいちゃん(おばあちゃん)と話して仲良くなる。たくさん遊ぶ。

(老人ホームに住んでいる高齢者)

- ・もう一度交流して、できなかったことをできるようにして、老人ホームに住んでいるおじいちゃん(おばあちゃん)が喜んでもらえるようにしたい。
- ・これからも老人ホームに住んでいるおじいちゃん(おばあちゃん)ともっと話したり、遊んだりする。
- ・老人ホームに住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんがもっと楽しめるもの(イベントや遊びなど)がないか、考えたい。

5 自分の祖父母や老人ホームに住んでいる高齢者のためにできることが書かれた全員分の付箋紙を見ながら、今後の学習の展望を考えたり、これからの自分の生活への期待を持ったりする。

6 本時の学習の振り返りをする。

ちゃん」「老人ホームに住んでいるおじいちゃん、おばあちゃん」の欄に分けて板書する。

○自分にできそうなことが浮かばない児童に

は、学級全体で共有したものの中からできそうなことはないか考えるように声をかける。

☆自分の祖父母や老人ホームに住んでいる高齢者のために、今後自分にできることは何か考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】(付箋紙)

○児童が抱くこれからの行動について称賛し、今後の学習や実生活においての期待を持たせるようにする。

○振り返りシートに、今日の学習で感じたことや考えたこと、こうしてみたいと思ったことなどを詳しく書くように声をかける。



